行政視察等報告書

平成２９年　３月３１日

境港市議会
議長　岡空　研二　様

会派名　自民クラブ
代表者　荒井　秀行

下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

記

１ 視察等期間	平成２９年１月２２日（日）～平成２９年１月２３日（月）
２ 視察等先及び内容	【　視　察　】 平成２９年１月２２日（日）１３：３０～１５：００ ○東京都武蔵野市 ひと・まち・情報　創造館　　武蔵野プレイス 【　研　修　】 平成２９年１月２３日（月）１０：００～１７：００ ○東京都豊島区 アットビジネスセンター池袋駅前別館 804 号 講　師：　木村俊昭　　（東京農業大学教授） ①　元気なまちの産業振興は何が違うのか？　10:00～12:30 ～6 次産業化のあり方～ ②　地方創生　成功の方程式はあるのか？　14:00～17:00 ～できる化・見える化・しくみ化～
３ 視察等議員	荒井秀行・永井　章・佐名木知信・築谷敏雄
４ 総経費	合計（４名）２８４，１９２円　（一人当たり７１，０４８円） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
５ 所見等	別紙のとおり

平成29年　1月22日（日）

視察先：東京都武蔵野市
　　ひと・まち・情報　創造館　武蔵野プレイス
報告者：築谷　敏雄

《　武蔵野市の概要と開設の経緯　》

武蔵野市は東京都の中央部、特別区の西側に位置し、昭和２２年に東京都の３番目の市として誕生した。市の面積は１０．７３㎢と狭く、全国７８７市中７７７番目の狭さである。また人口は１３万８０００人（平成２４年９月１日現在）で、人口密度は７８７市中２位と高い。この人口も昭和４０年代から５０年間１３万人台で推移し、町全体が住宅地や商店、工場となっており、新たな開発の余地が少ない成熟した都市となっている。

市内には中央本線の３つの駅があり、それぞれ特有の駅圏域を形成している。吉武蔵野プレイスと境南ふれあい広場公園祥寺駅周辺は都内有数の商業・文化都市となっており、近くの井の頭公園ではテレビや映画の撮影が行われる。三鷹駅周辺は市役所を始めとする行政施設や文化・スポーツ施設、警察署、消防署等が集積している。また武蔵境駅周辺は武蔵野市の原風景が残る学術ゾーンとなっており、武蔵野プレイスもこの駅前にある。

武蔵野プレイス開設までの経緯については、同館の建設用地は農林省の食料倉庫跡地を払い下げられたもので、平成９年に市議会に跡地利用の特別委員会が設置され、平成１９年に「武蔵野プレイス（仮称）専門家会議」を設置、平成１９年に「武蔵野プレイス（仮称）管理運営基本計画」を策定、平成２０年に名称を公募、「武蔵野市立ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス」に決定した。平成２１年建設着工、平成２３年１月竣工、平成２３年７月９日オープンした。敷地面積は約２２００㎡で地上４階、地下３階の多目的施設である。

《　武蔵野プレイスの機能　》

武蔵野プレイスは市民が活動する「プレイス（場）」を提供するもので、「図書館」「生涯学習支援」「市民活動支援」「青少年活動支援」の４つの機能からなり、人々が集うことにより、生活、文化、芸術、自然、歴史、まちづくり、ボランティア活動、市民活動、生涯活動、福祉、教育などの横断的な活動や活性化を促すとしている。

４つの機能のうち図書館スペースが大きいが、外部に図書館という表示はなく、あくまで多目的施設を目指している。１階には予約資料コーナー、新着・返却資料棚、ギャラリー、カフェなどがあり、隣接する公園と同じレベルにして一体化している。カフェでは食事もできる。２階は児童図書を配置し、こどもライブラリーやお話の部屋などを配置している。３階はＮＰＯ等の市民活動団体が打ち合わせや、情報収集、相談、印刷などに利用できるフロアーを配置し、大きさが異

なる５つ（１０～４０人程度）の会議室などがある。

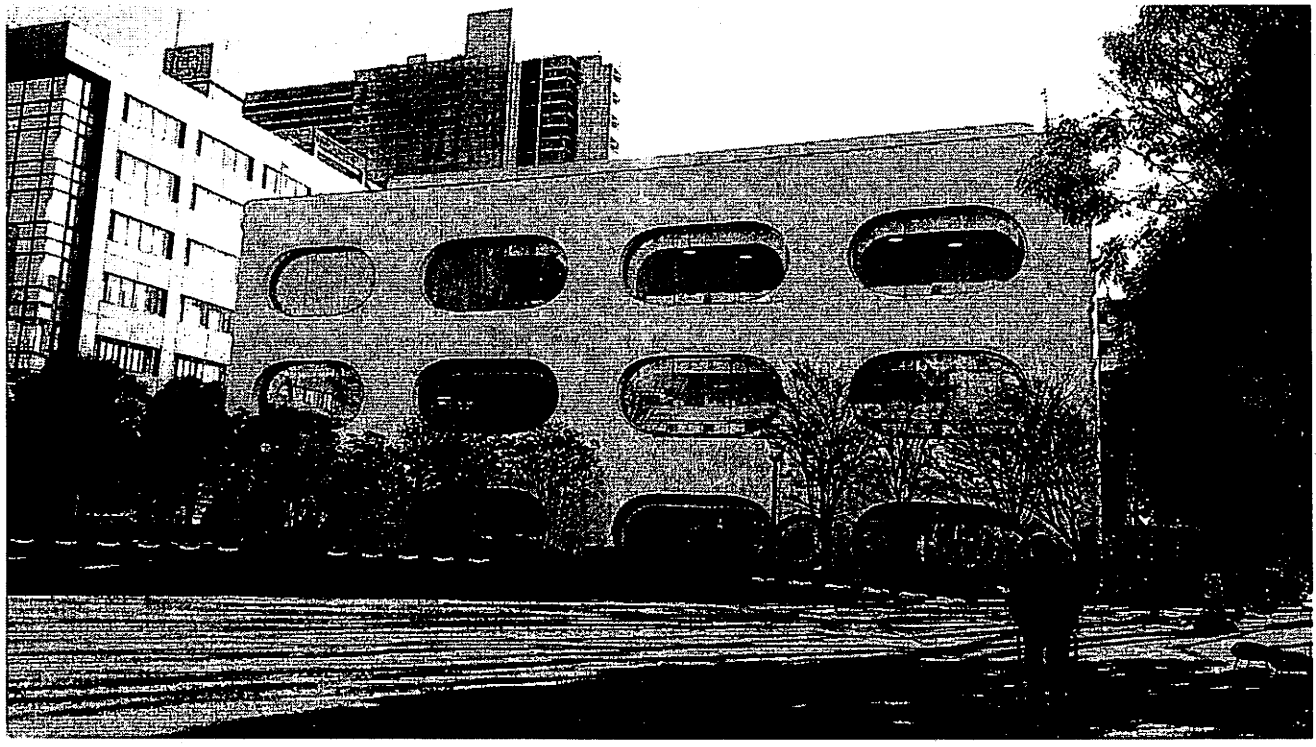
１階から４階まで開放的な吹き抜け、４階は生涯学習や市民・文化活動のための講座・講演・ワークショップ等ができる「フォーラム」（最大２００人収容可能）や４０席の個人の書斎的有料スペースがある地下１階は図書フロアーを中心として図書７５，０００冊、雑誌２００誌が収納されている。地下２階は青少年が気軽に利用できる５種類のスタジオが設けられており、ダンス、演劇、コーラス、楽器演奏などの練習ができる。なお地下３階は駐車場。全館壁を少なくし、また個室もガラス張りにして、他の人たちの活動が見られるようになっている。

まとめ

今回視察した武蔵野プレイスはまさに多目的な施設である。図書館の機能がメインと思われるが、外部にも図書館という表示はなく、図書館は１つのブースとなっている。また館内のいたる所で飲食ができ、１階フロアーは隣接する公園と一体化しており、視察時は昼時が過ぎて間もない時間帯であったが、カフェは家族連れなどで賑わっていた。

この施設は地上４階、地下３階となっている。地上４階はともかく、地下３階の建物は極めて珍しく、建設費も多くかかるのではないかという心配をしたが、これは市域に余裕地は少なく、限られた土地を有効利用するためのものである。また、この図書館は市外の人にも貸出ができる形態をとっている。

境港市の計画中である、境港市民交流センター（仮称）の複合施設の中に図書館機能がどれだけの内容が盛り込まれるのか、また、まちづくりの拠点としてどのように考えるのか、多くの市民の声をすいあげて行くのか、今後注視していきたいと考える。



平成 29 年　1 月 23 日（月）

①
内　容：元気なまちの産業振興は何が違うのか？　10:00～12:30
～6 次産業化のあり方～
講　師：東京農業大学教授、木村　俊昭
報告者：築谷　敏雄

《　地方創生の目的とは　》

今、全国の各地域では、少子高齢化、人口減少や人口流出、合併後の中山間地域の衰退など、諸課題が山積し、独自には解決できず厳しい状況にある。なぜ、みんなで汗しても、地域は元気にならないのだろうか。今一度、ここでよく考えてみる。私たちは「できない理由」探しに時間をかけていないだろうか。自己分析や、まち分析を充分に行わず、心地いい仲間とだけ、ネットワーク構築をしていないだろうか。バラバラに構想・実現が行われていないか。地域が一体となった実践となっているか。上から目線の「説得」によって物事が進められてないか。地域活性化のものさし（基準）を創り、常に検証し、構想・実現しているか。

地域活性化の基本は、地域の産業・文化・歴史を徹底的に掘り起こし、研き、地域から世界へ向け発信するキラリと光るまちづくり、未来を担う子どもたちを地域で愛着心あるよう育むひとづくりと、33 年前から考え、北海道はじめ全国の自治体で実現してきた。今、自分たちはどんなまちに住みたいのか、次世代を担

う子どもや若者に受け継ぎたいまちとはどんなまちなのか。地域が「部分・個別最適」に陥っていれば、急がず焦らず慌てず近道せずじっくり、決して諦めず、「広聴」を重視し、「全体最適」思考で構想することが重要であると考える。

《　地域活性化のものさし（基準）とは　》

地域の諸課題が適正に達成されているのか、費用対効果を含め、検証が重要となる。その「知り気づき」が新たな「行動」へと移る原動力だ。例えば、リーマンショックの前後で、市民1人当たりの所得、人口や若者流出、教育環境が、どの程度、変動したのかなど、調査・分析が重要である。そこで、「地域活性化のものさし（基準）」が必要となる。

まちの主産業を充分に調査・分析のうえ、主産業の強化を図り、関連産業の起業創業の意欲を高め、地域間の産業連携、地域人財の養成と定着が重要と考え推進中だ。「部分・個別最適」な状態を、「全体最適」「価値共創」「住民満足」「循環型社会の実現」「費用対効果」重視の思考で、地域所得・売上げの向上、地域人財の養成と定着のシステム化、地域で汗する人を評価する仕組みづくり、女性、若者、年配者の活躍する場づくりと支援体制、まちの将来を見据えた新たな産業・文化おこしを構想・実現している。まず、今、活性化モデルとなっているまち、自分や家族、知人の暮らすまちに照らし合して確認作業をしてみることが大事であると考える。

《　まちの常勤者の一体感がカギ！プロデューサーが重要！　》

今、地域では「先取り自治体」と「課題解決自治体」との差がはっきり見えてきた。「ないものねだり」から「あるものさがし」、住むまちの産業、歴史・文化を掘り起し、独自のストーリーを創り出し、個性のある「住みたくなる、お客様が来たくなる感動と感謝のまちづくり・ひとづくり」が求められている。全国の各地域は、今こそ、課題解決のみに追われる自治体から、地域のあり様を先取りする自治体、「できない」理由探しではなく「できる！」をいかに構想・実現するかが問われている。地方創生戦略と経済対策では、自らのまちの地域資源を知り気づき、利活用する行動に移し、知識から「知恵」へ進化させ、まちの主な産業（基幹産業）の活性化を図り、起業創業の機運を高め、農商工等の連携、6次産業化など、地元産業の関連付けをし進化させる。そのためにも、この機会に、まちで30～40年間程を常勤者として勤める青年会議所、商工会議所・商工会、農協・漁協、地域金融機関や行政職員、小中高校の教員などが、経験ノウハウを持ち寄り、まちの各種情報を共有し、「広聴」から一体感を持ち、活性化策を構想・実現することだ。特に、地域金融機関や小中高校の教員の参画が、これからのまちのキーワードだと考えている。

構想を継続・進化させるため、一部の地域の一部のひとの関わりから、より多くの広がりにするため、情報収集から、情報共有の場づくり、役割分担（分業）、事業構想力、事業継承力、事業構築力が求められる。特に、今、地域では、部分個別最適を「全体最適」「価値共創」などを推進するリーダー・プロデュース役が

求められている。

《「産学官金公民」連携による地域活性の人財養成がカギ！》

地域経済の活性化には、行政、地域金融機関との連携や、大学、研究機関、経済団体等の連携がますます重要となってきた。商店街は個性や役割の再考が必要だし、地域の企業群は魅力ある産業クラスター形成が将来の経済活性化を左右する。地域活性化政策の構想・実現には、「産学官金公民」の連携強化が欠かせない。

グローバル化に伴い、一村一品から、地域全体に派生する「全体最適」思考で、一村逸品、一村一強や、地産地消、地産外商、互産互消、外産外商の構想とその実現が重要である。行政と大学、地域金融機関等の連携協定を締結し、地域資源を活用した食品加工技術の普及、地域ブランド化、地域経済を担う人財養成や定着など、「地域内経済概況」や「わがまち白書」を作成のうえ、着実に実践し、発信することだ。「産学官金公民」連携を進めて行き、最初から地域の目標設定を高く掲げず、今よりちょっと上を目指すことである。豊かな地域づくりの構想・実現は、けっして諦めず、真のパートナーとブレーンの協力を得て、自ら知り気づき行動することだ。今回の最後の機会、地方創生と知り気づき、超プラス思考で、自分と周りの皆さんのモチベーションを高め、超プラス思考で、「笑顔、感動と感謝のまちづくり・ひとづくり」、木村モデル「五感六育(食育・木育・遊育・知育・健育・職育)」を構想・実現し、地域からイノベーションを起こすことが大事であると考える。

②
内　容：地方創生　成功の方程式はあるのか？　14:00～17:00
～できる化・見える化・しくみ化～
講　師：東京農業大学教授　木村　俊昭
報告者：築谷　敏雄

① 行政の3ない主義とは

法令がない・予算がない・前例がない・人件費、維持費を考えない、事業構想できない。

② 機会創出は誰がするのか。　行政、民間

自ら知り気づき、そこから行動へ。本気・情熱・行動。説得できない→納得・理解へ。

③ 市民はどんなライフスタイルを実現したいのか

常に、広聴、傾聴と対話、ライフスタイル、メッセージ、ストーリー性、ドラマ化とこだわり「広聴」重視、実学・現場重視の視点、キャッチコピー。

④　まちづくりの基本

全体最適、価値強制、住民満足、費用対効果、循環型社会重視の思考。

・産業・文化を掘り起こし、研き、地場から世界へ向けて発信する、キラリと光るまちづくり。

・未来を担う子どもたちを、地域が一体となって愛着心を持つよう育むひとづくり。

⑤　地場産業振興・事業構想のポイント

・地場の主な産業　　→　何を生業に暮らしているまち

・地場に関連する起業　→　関連産業の創発

・企業誘致、人財招致　→　順番を間違えないこと

○　移住・定住　　→　　定住・移住

⑥　まちの人財要請プログラム

・民間人財、行政人財の養成と定着

・リーダー・プロデューサー人財の養成・定着

・国内外事例　→　成功と失敗

・行政職員の研修グループ、民間の異業種グループの発足

⑦　まちが動く、まちが変わるには

・広報から広聴　→　「広聴」から広報へ　　ワールドカフェ

・まちを歩いてみる　→　現場、見える化

・まちで聞いてみる　→　広聴

・歴史的背景、立地条件（風土）、産業軸

⑧　行動の町への提言、　　つなぐひとは

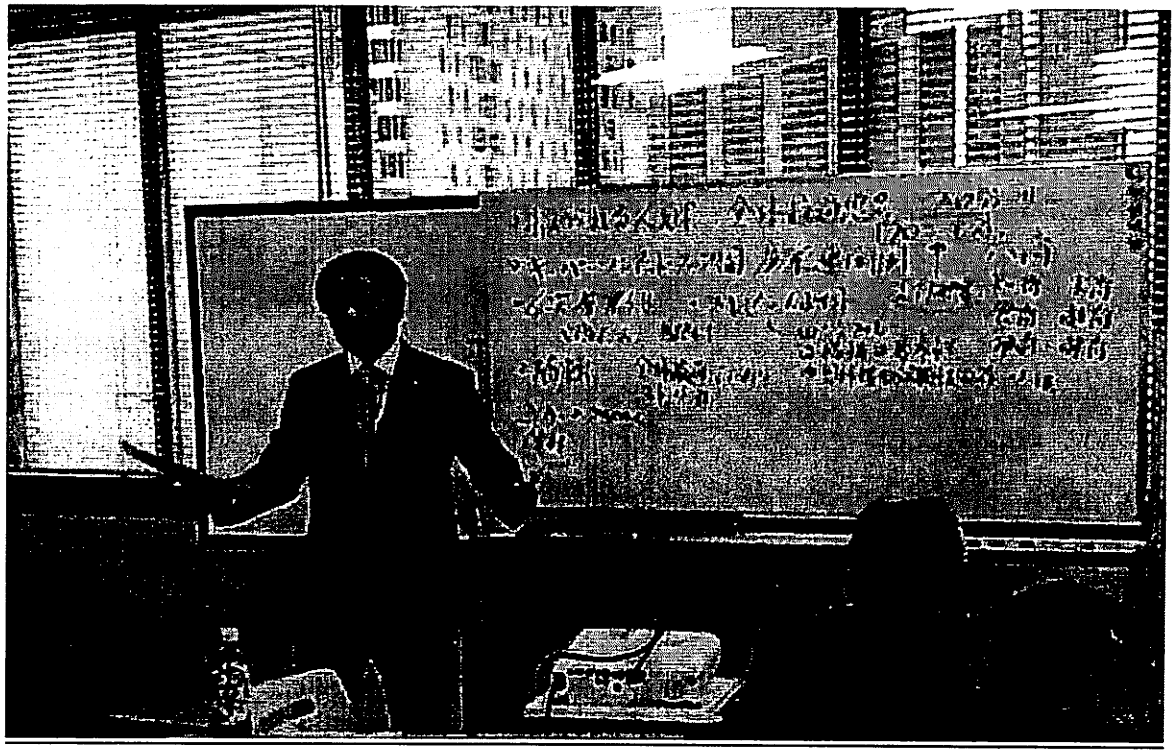
「五感六育」構想の実現

・0歳～100歳のコミュニティ、コミュニケーションの形成

・why　so　？　　So　what　？の繰り返し、ビジネスモデル

・五感六育モデルの推進

五感　→　見る、聞く、嗅ぐ、触る、味わう

六育　→　食育、遊育、知恵、木育、健育、職育

政策誘導している現状と課題は厳しいの、一言で尽くされる。しかし、その言葉だけで将来にむけての希望はあり得ない、お互いに条件が違う立場で、地域力を存分に発揮し魅力あるまちづくりを推進する発想と言動力になるよう議員力を高めなければならない。地方創生の原点は、地域の魅力を活かしたまちづくりが基本であり、様々な将来像を描いて具体的な計画を策定することが一番の総合戦略であると考える。